



いんふおめーしょん

子どもの人権連

Federation for the Protection of Children's Human Rights JAPAN

2022
8.8
no.172

Report

「こども家庭庁」に関する子どもシンポジウム

- I NPO法人地域子ども共育ステーションハッピーサークルサイクル
かすかべ子ども食堂ひなた 佐藤 日向 1
- II 認定NPO法人 多文化共生センター東京
ハック アデリータ ハリマ 3
- III 認定NPO法人 多文化共生センター東京
ルヒナ マヘルプ 4

第21回「子どもの権利条約具現化のための実践」助成事業報告

- ① 福島県の子どもに寄り添うプログラム 活動報告
東洋大学社会学部学部社会福祉学科 森田明美ゼミ 7
- ② 2020年度セクシャルマイノリティ新潟県生徒交流会 活動報告
セクシャルマイノリティ新潟県生徒交流会 21
- ③ 子どもの権利条約関西ネットワーク 子どもチーム
子どもの権利条約関西ネットワーク 25

World trends

- Document 子どもの権利をめぐる国際動向 (2022.4～2022.6)
ARC代表・子どもの人権連代表委員 平野 裕二 26

Information

- 9/9 子どもの人権連 第37回総会・学習会 34



「こども家庭庁」に関する子どもシンポジウム

4月30日、毎日メディアカフェの「こども家庭庁」に関するシンポジウムが毎日ホールで開催されました。「こども家庭庁」ができることによって、子どもの権利はどうなっていくか？

発足に期待することや疑問に思うことなど、子ども自身の声を聴く機会を設けようと、日教組と連携し、子どもの人権連に関係している子ども・若者たちにも参加してもらいました。

当日は、広瀬太智さん（フリー・ザ・チルドレン・ジャパン）がコーディネーターとなり、前田晃平さん（フローレンス）にコメントをもらいながら、10人の子ども・若者たちによって、「子どもの権利が守られ意見が反映されるようにするために」さまざまな意見が出されました。シンポジウムの様子は、5月21日の毎日新聞夕刊（東京版）にも掲載されました。

以下、子どもの人権連から参加した子ども・若者の報告です。



NPO 法人地域子ども共育ステーションハッピーサークルサイクル

かすかべ子ども食堂ひなた 佐藤 日向

今回はとても良い経験になりました。ありがとうございました。

さて、早速ですが、①おとなたちに言いたいこと②子どもの権利についてどう思っているか③シンポジウムに参加した感想。の3点に重きを置いて書こうと思います。

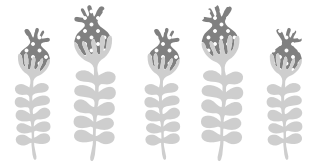
まず、おとなたちに言いたいことについてです。

「僕たちがここで話してもあんまり意味ないよね。本当に向き合わなきゃいけないのはこういう場に出れない声あげられない子どもたち。そして、そもそも興味のないおとなたちがここに立って話し合うべきだ。」シンポジウムが終わった後、私と一緒に出てくれた子どもたちと話したことです。

とても難しい話だと思います。しかし、これが真意ではないでしょうか。

今回のシンポジウムは、議論の素材として使うものであって、そもそも今の問題を解決しようという意図ではなかったのかなとは思います。

しかし、私は今回のシンポジウムで出てきた問題は、解決し私たちの「当たり前」にしなければいけないことだと思います。それに加えて、声を上げられない・そもそもおとなに期待をしてない子どもたち、子



どもの権利を侵そうとするおとなたちに対してどう対応するか、それを考え実行して欲しいです。

私たちができないことをおとなたちにやってほしい。それがおとなの役目である。それが私の意見です。この意見を聞いておとなたちはどう思うでしょうか。抽象的で、おとなからしても難しいことだと思います。縦割り問題はとても根が深いのかもかもしれません。しかし、物事には優先順位があると私は考えます。

前田さんが言っていた「なにも難しいことじゃない。子どもを一人の人間として扱うだけのこと」本当にその通りだと思います。子どものことよりもレジ袋を有料化するほうが大切なのではないでしょうか。

子どもはよくおとなを見ています。私たちの子どもの世代で社会が良い方向に変わっていることを期待します。

次に子どもの権利についてどう思っているかについてです。

子どもの権利が守られなければ、きっと私たちがおとなになったときに、子どもの権利が守られることはないでしょう。そんな負のスパイラルが起らないよう、考える必要がある。そして私たちが主張しなければいけないと思います。

子どもの権利が守られるのは当たり前のことです。しかし、今回のシンポジウムから分かる通り、その当たり前のことが当たり前ではないということが、今の現状です。

子どもひとりひとりをちゃんとした人間としてみてあげることが大切だと思います。

最後にシンポジウムに参加した感想についてです。

今回のシンポジウムでは、「こども家庭庁の設置についてどう思うか。」また、「こども家庭庁に望むことは何か。」を子どもたちが話しあうというシンポジウムでした。

しかし、実際のシンポジウムではこの2点だけではなく、たくさん問題について話すことができました。例えば、「能力の差があるのに同じ教育スピードでいいのだろうか。」

「性同意年齢」「奨学金の援助」など私が考えもしなかったことがたくさん出てきました。

普段私が触れることのなく、考えもしないことばかりでした。

このような意見が埋もれてはいけないと思います。子どもの問題といえば、いじめや貧困などが1番に思いつくものだと思います。

しかし、たくさん意見が出ているのを見ると、今の子ども問題はとても根深いものだと感じるようになりました。みなさんが発する一つ一つの意見がとても貴重なものだと思います。とても刺激になりました。

そして、私が今回のシンポジウムで一番の良い経験になったと思っていることは、一緒に出てくれた人たちと会えたことです。今の社会に対して真剣に向き合ってきたおとなたちや子どもたち、そんな仲間と一緒に話せたことがなによりもとてもいい経験になりました。

普段生活していて、こんなにも真剣に話し合いをしたことは数少なく、こんなにすごい人たちがいるのだということがわかりました。みなさんと出会えたことが今回の1番の収穫です。良い経験をありがとうございました。



認定 NPO 法人 多文化共生センター東京
ハック アデリータ ハリマ

「こども家庭庁」の最も大きな目的は、子どもの権利を守ることだと思う。「子どもの権利条約」では、世界中のすべての子どもが健康に生き、存分に学んだうえで自由に活動し、大人や国から守られ援助されながら成長する権利があると定めているが、それを具体化するのが「こども家庭庁」だと考えている。

今は「こども家庭庁」について、学校や家庭であまり話題になっていない。しかし、これから全国に「こども家庭庁」に関する知識や情報はどんどん広がっていくと思う。そこで子どもの声を聞きながら、これから子どもの未来のために何をすべきか調査することが一番大事だと思う。

私は現在、高校に通っている。国籍はバングラデシュだ。日本にいる外国人として、いろいろな経験があった。その経験から「こども家庭庁」にやってもらいたいことがたくさんある。

子どもの権利の中で一番大事なのは、平等に教育を受けられることだと思う。性別や国籍に関係なく、すべての人には教育を受ける権利があるべきだ。また、教育を受けることに関して誰でも支援を受けられることは当たり前だと思う。しかし、日本で支援を受けるときにはいろいろな条件がある。そのことについて私の経験を書いてみたい。先日大学進学のために奨学金を申し込む準備をしていた。日本学生支援機構の奨学金を受ける条件をよく見ると、申し込める学生は限られている。外国籍の場合は、定住や永住の在留資格がないと申し込む事は不可能だとされている。その後、他の団体などもよく調査してみたが、ほとんど同じ条件である。私はこれは非常に大きな問題だと思う。子どもは平等に支援を受けべきだと言われているのに、残念ながら国籍や在留資格のためにたくさんの子どもの権利から遠ざけられてしまう。「こども家庭庁」は政府が動かす機関だ。動かす費用は私達が払った税金から来ている。税金は国籍や在留資格などに関係なく、すべての日本に住む人が払っているわけだから、支援もすべての人が平等に受けべきだ。私のような移民の子どもはたくさんいる。他の子どもみたいに、彼らも進学などの夢を持っていると思う。自由に選択する権利があるならそれを守っていくべきだ。今まで権利があるのにサポートがなくて夢を諦めた人は世の中にたくさんいると思う。「こども家庭庁」には、これからどんな国籍の子どもであろうと、子どもの教育を受ける権利と選択する権利を守ってほしい。

「こどもの家庭庁」には期待するものがたくさんある。「こどもの家庭庁」ができることによって、今まで起こっていたさまざまな問題などがこれから解決に向かっていくことを願っている。子どもは世界の未来だ。みんなで大切にしながら安全な社会を作っていきましょう。





今回のシンポジウムに参加し、まだ二十歳になっていない子どもたちの話を聞きとても感動しました。また、同時に自分が一緒に参加している場として少し違和感を持ちました。現在大人になっている自分からすると、子どもたちの相談相手の一人にもなれるのではないかと感じ、また、彼ら、彼女らの立場からの話に共感している自分もいました。学童クラブで「先生」として、子どもたちとどのようにかわるべきかなどを考えつつ働いてきた私ですが、自分の過去の経験を思い出しながら、一緒に参加した人たちの話を深く受け止めてもいた時間でした。なぜかという、自分もその中の一人だったのではないかと感じたからです。

私は 1997 年東京で生まれました。母国のイランと生まれ育った日本、二つの国の教育と文化の中で育ち、現在は日本大学文理学部の 4 年生です。父の仕事の関係で日本に住むようになりましたが、イランの言葉や文化も大切に行き来をしていました。

自分や妹は、高校や大学進学にあたって、つらい、厳しい、怖いなどの感情を経験しながら進学するために苦労してきましたが、今回のこのシンポジウムで、とても理解できたのは「私たちだけじゃなかった!」ということでした。

私や妹はお互いのサポートや家族のサポートなどもあり、希望を失わず努力することで結果は成功でした。しかし、現在もいじめなどに苦しんでいる多くの子どもたちがいるということ、教育システムの足りない部分に耐えて夢に向かって走らなければいけない子どもたちが山ほどいるのだと思いました。彼ら彼女らの声が届くべきところに届けられれば、改善への大きな力になると思いました。

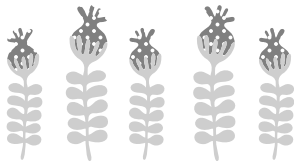
私は外国籍なので、いじめや差別などがあったときは、自分の国籍が問題として見ていましたが、今回の子どもたちの発言を聞いたあと、やはり差別は国籍と関係なくどこにでもあるのだとっと理解することが出来ました。

私は、小学生の頃は日本の小学校に通いつつ、東京イラン人学校（イランの教育システムで行われている学校）にも通いました。2つの全く違う言語、教育システム、時間割、文化等を同時に受け入れていた小学校時代を過ごしました。

中学は東京イラン人学校に通い、同時に日本の高校に外国人枠で入学できる様に多文化フリースクールで勉強を始めました。

その後、都立浅草高校に入学しましたが、日本の高校とイランの高校との両立は時間的にもとても難しく、日本人学生と友だちになれず、人間関係も上手くいきませんでした。外国人という大きな違いがある上、スカーフをかぶっている格好のため、他の学生たちと距離を置く状況になっていました。そのため、1 年生で日本の高校を辞めることにしました。

その後、母国で大学に進学しようと思い、大学受験に向かってイランの高校の勉強に集中しました。3 年後に高校を卒業し、イランの国立大学に合格しました。



しかし、日本の大学の教育システムは、優れていて素晴らしく、アカデミックな雰囲気で大學生を送りたいと思い、日本の大学で学ぶ決断をしました。

このあらたな決断から私にとっては、とても不安で先の見えない道が始まりました。日本での進学について考えたことがなかったため何をしたら良いのか分からない状態でした。まず、自分の日本語が大学に入学するためにはとても足りていないことは理解していたので、日本語と大学進学をサポートしてくれる日本語学校に1年間入学しました。日本語能力は強化できたのですが、進学するための道はまだとても暗い状態でした。

なぜか？

私は日本生まれで、国籍はイラン国籍。高校卒業証明書は日本の学校からではなく、イランの文部科学省が発行する証明証で、留学生枠としての大学入学を希望していました。私は、東京にある国立大学、数多くの私立大学の入学センターへいき、条件の説明を聞きました。どのように日本の大学に入学できるのか、どのような試験が必要なのか等さえ知らなかったのが、情報取得がたいへんでした。

ところが、そこで、たいへんな壁にぶつかりました。それは、自分の持っているイランの高校生卒業証書では、留学生枠は認められないことでした。これを知ったのは、もうすでに2回も日本留学試験EJU（外国人が受けるセンター試験）受けていた頃の話です。1年かけて勉強して試験を受け、やっと出願できると思った途端に留学生枠じゃないと言われ、どうすればいいのかとても悩みました。

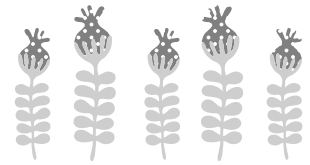
出願さえできず、1年もの間、必死で数多くの大学を直接に訪問し、さらにメールや電話で問い合わせをしました。とても親切に回答してくれた大学もあれば、「他の受験生の対応をしなければいけないのであなたのケースに時間かける事はできない」と断られたケースもありました。

そんなある日、日本の文部科学省から連絡がきて、「条件を確認する為に一度きてください」と言われ、直接文部科学省の方とお話ししました。そこで伝えられたことは、色々な規則の理由で私のケースは、文部科学省としては、留学生枠で受験する資格があるとは判断できないこと、しかし、個々の大学の判断によっては受験できるという結論でした。

希望はなかったのですが、不安を抱えながらも出願を諦めず、2017年の2月まで受験できる大学に出願書類を送る努力を続けました。やがて6校の大学から受験許可の通知が届き、やっと受験生として認めてくれたという気持ちは合格した気持ちとほぼ同様で、ほんとうに嬉しかったです。

実は、このような状況は日本の高校に進学する時も全く同じでした。中学卒業証明書はイラン学校から発行されており、それは認められなかったのです。東京イラン人学校が、母国と同等の教育課程を実施していても日本の文部科学省のリストに入っていないことが要因になっていました。

私や妹や私たちのような数多くのイラン人の子どもたち、また同様な状況に置かれている外国籍の子どもたちが、自分自身には関係のない理由で勉強する道を絶たれ、不安の中でどれほどの苦勞をしているかと考えると辛い気持ちになります。



18歳の受験生は、ただ勉強と大学受験に向けての準備をするのが普通だと思いますが、私たちは両国の国や大学の仕組みなど、規則の間に立たせられています。受験は後回しになり、まずは受験させてもらうための問題を解決することに多くの時間とエネルギーを使わなくてはなりません。

子ども家庭庁についてのシンポジウムに参加して、日本社会に限らず、全世界の教育システムは、もっと子どもの権利を大切に、改善していかなければならないと思います。子どもたち一人ひとりが、国籍にかかわらず同等の権利があり大切にされなければならないという事実を知らせていくべきではないかと思いました。





① 福島県の子どもに寄り添うプログラム 活動報告

東洋大学社会学部社会福祉学科 森田明美ゼミ

① 2020年度「コロナ禍」のなかでの東日本大震災子ども支援活動

2020年度は東日本大震災から10年の節目でもあり、森田ゼミはさまざまな計画をした。人権連に数年助成を受けていたのは、福島のみひとり親家庭の子どもたちと震災から毎年継続してきた夏の2泊3日の学生との交流事業「サマーレスパイトデイズ」であった。夏の2泊3日の活動だけでなく、その間に継続的な交流ができるようになり、どんどん高校を卒業する子どもも現れ、今後の交流活動を模索し始めたところであった。

ただ、学生も福島の子どもたちも最後まであきらめず、多様な形を考え、実施の可能性を探った。

私たちが、毎日のように大学や現地と交渉し、最終的には今回の報告となった5の形式になったが、それまでの私たちの残念な工夫となったいくつかを紹介したい。書けば一言だが、それは大変な調整を一つの段階ごとに行い、できないとわかったら落胆し、それを乗り越えて次を考えるという毎日だった。

<新型コロナウイルス感染者数の状況によって変化させた活動>

- 1 4月：東洋大学の学生セミナーハウスは閉鎖→福島で実施。春、子どもたちが猪苗代でジャガイモの植え付けをし、夏に学生と一緒に掘り上げる活動をする。
- 2 4月末：東京の感染者数が増加→準備は福島で行う
- 3 5月：宿泊は個室を使用する→1泊にしてビジネスホテルを探す
- 4 6月：宿泊の活動は禁止→新幹線を使用した日帰りの活動にする
- 5 7月：緊急事態宣言が東京に出る→福島は発生が少なかったので、子どもと現地スタッフで楽しみ会と宿題教室に切り替えて実施。オンラインで学生は参加する。映像は仙台からサポートに入ってもらおう。

② 8月8日（土）実施当日

<日程>

8：00：郡山駅集合

8：30：郡山駅から観光バスで猪苗代湖へ移動

9：30：猪苗代湖でのジャガイモの選別

（雨が降ってきたのでジャガイモ堀りは中止、預けてあったジャガイモの選別を行う）

11:00: 昼食

12:00 ~ 14:00 ゲームと宿題タイム

15:00: 郡山駅解散

● 当日雨が降ってしまった! ジャガイモの選別



ジャガイモ掘りの様子を Zoom を通じて中継してもらいました。

● 初めての東洋大学生との学習会



Zoom を通じて塾講師などのアルバイトで学習指導の経験がある学生を中心に、受験生に学習支援を行いました。

● オンラインゲームの会



○×クイズやイントロクイズやジェスチャーゲームなどを行いました。

子どもたちは最初は緊張している様子でしたが、徐々に笑顔が見られました。

3 アンケート結果

1) 調査概要

福島の子どもに寄り添うプログラムを来年も行うにあたり、今年よりも、参加する子どもと学生が共に成長できる活動を行うため、調査を行った。

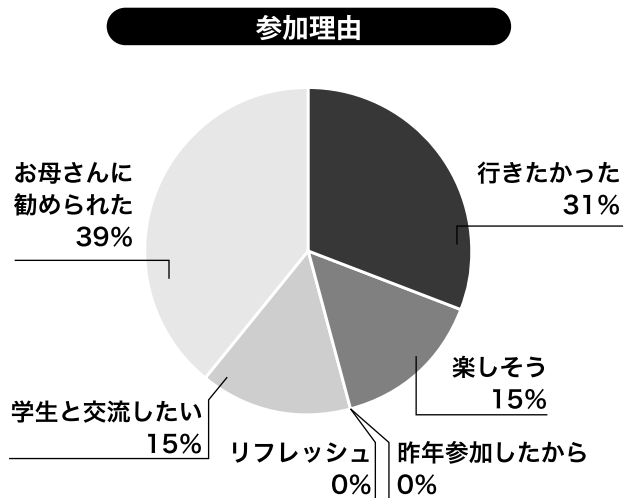
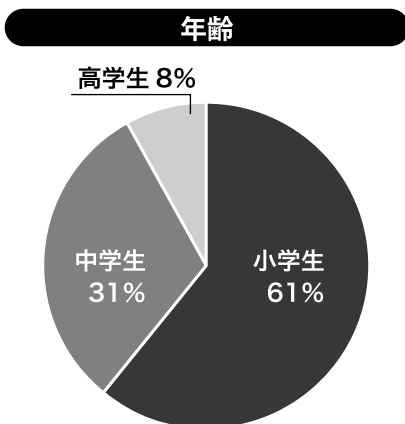
2) 調査方法

アンケートによる調査

3) 調査対象

福島の子どもに寄り添うプログラムに参加した学生（森田ゼミ生21人と学内で募集したボランティア学生5人）、子どもたち13人

<子ども>計13人うち回答を得られた13人のアンケート結果>



●子ども

- ・数学のドリルのわからない所をていねいに説明してもらえてよかった。また勉強を教えてほしい。
- ・クイズが楽しかった。また参加したい。
- ・ネットでもつながって会えるのがうれしかった。ひさしぶりに声が聞けてうれしかった。
- ・少しでもお手伝いしたいと思って参加しました。重い荷物をバスに運んだり、みんなに声をかけて手伝ったのが良かった。誰かの役に立てて良かった。
- ・オンラインでも交流できてよかった。とても楽しかった。理科を教えてくれた学生さんの教え方がすごくわかりやすくてよかったです。また勉強を教えてほしい。
- ・東洋大の学生さんと交流したかったので参加して良かった。学習支援、まだ学校で習っていないところとか、授業でやったけど授業が遅れているので先生の教え方のスピードが速くて理解できなかったところがあったけれど、今日教えてもらってしっかり頭に入りました。そして楽しく勉強ができて良かったです。ありがとうございました。レクも楽しかったです。
- ・全部楽しかった。また参加したい。
- ・ママに行ってこいって言われたから来たけどゲームとっても楽しかった。またきたい!
- ・お母さんに行って来たらって言われてきたけど、ゲームとっても楽しかった。またやりたい。
- ・家にいてもどこにも行けないから来たけど、きてよかった。とっても楽しかった。
- ・ゲームとかジェスチャーゲームとか、すごく楽しかった。ありがとう。
- ・全部たのしかった。いろいろ準備してくれてありがとう。
- ・もっとやりたかった。考えてくれた人ありがとう。
- ・楽しかった。
- ・お姉さんやお兄さんとレクや勉強ができて楽しかった。
- ・マルバツゲームが楽しかった。
- ・以心伝心ゲームが楽しかった。
- ・リーダのKさん準備ありがとう。

<学生>

●ゼミ生の感想

- ・子どもたちが楽しんでくれて嬉しかった。
- ・去年あった子と今年も会えて嬉しかった。
- ・開催できたことが良かった。
- ・直接じゃなくても支援できることがたくさんあることを知った。
- ・画面上でも子どもの成長が見られて良かった。
- ・直接会いたい気持ちがより強くなった。
- ・自分自身も楽しい気持ちで参加できた。

● ボランティア学生の感想

- ・ 現地に行って直接支援をしたかったが、オンラインになってしまい残念だった。最初はどのように活動をするのか不安だったが、意外とオンラインでもできることはあるのだなと感じた。今後もオンラインでやれることがあれば、積極的にボランティアに参加したい。本当に良い経験になりました。ありがとうございました。
- ・ 子どもたちの笑顔を見ることができて良かった。シングルマザー家庭の子どもたちは、どんな子たちなのだろうと疑問を持っていたが、みんな元気ハツラツと生きている姿を見て、凄いと感じた。また今回、オンラインでの交流が成功した要因としては、継続して支援を行っている「こぶたのポッケ」の効果があるのではないかと感じられた。それから、今回の活動を通して「オンラインだと感情が伝わりにくい」と感じた。またオンラインレクを進めていく中で「迷子さがし」をすることが大切だということがわかった。やはり対面ではなく画面越しでコミュニケーションをとっていると、今何をして良いのか分からない人が出てきてしまう。そうならないためにも、こまめに確認していくことが重要である。さらに、今回のプロジェクトの責任者である功刀さんの負担が大きいのではないかと感じたので、オンライン活動への変更により仕事がなくなってしまった「食事・入浴・備品係」に仕事を分担させればもっと功刀さんの負担を減らせたのではないと思う。
- ・ 今回の活動を通してたくさんのことを学ぶことができました。また森田ゼミの皆さんが行っているPDCAのサイクルを真似していきたい。良くなかった点としては、ボランティア生のアウェイ感が否めなかったため、楽しんでやるというよりも常に緊張してしまった。もっと参加しやすいようにしてほしい。
- ・ 私は最後まで参加できませんでしたが、企画してくださった皆さんの熱意や、現地の子どもの楽しそうな顔がとても伝わってきました。私なんか顔合わせと当日しか参加してなくて微々たる力でしたが、このボランティアに協力できて本当に嬉しかったです。また、レクリエーションも〇×クイズを1問出題できて、子どもたちの反応を実感できたのも嬉しかったです。

● 今後の課題について

- ・ 「限られた人しかコミュニケーションがとれない=全員での会話は不可能」
→画面越しに大人数で会話をするには限界があり、今回子どもたちとZOOMを通して会話できたのは限られた人であった。今後のオンラインでの活動では、今回よりも多めにチームを分け、少人数で活動することが望ましい。そのためにはiPad購入が必要になってくる。
- ・ 「ペア割が機能しなかった」
→毎年、現地での支援が可能な場合は、常に学生と子どもがペアになって行動していたが、今回のオンラインでの支援はそれが難しい形となった。まず、画面上でペアの子どもを見つけるのが難しく、また子どもたちもペアの学生を見つけるのは困難であった。これを改

善するためには、やはり少人数での活動に力を入れ、コミュニケーションを取りやすい環境づくりが大切だと感じた。そうすることで子どもも学生も、お互いに顔と名前を覚えやすくなり、継続的な支援を充実させることができるのではないと思う。

・「レクリエーションの準備の仕方について」

→レクリエーションは、担当の係が準備を進め、当日も子どもたちを楽しませることができた。しかし係の間での連絡手段はLINEのみであったため、ゲームの進行の仕方や、ルールについて係全員が把握しきれていない部分があった。また分からないことがあっても、LINE上で聞くことしかできず、伝わりにくかったり、聞くことができない人がいたのも事実だと思う。今後は、同じようなことがないようにするためにも、当日までに最低1回は係全員がZOOMなどで集まって話し合い、レクリエーションの進め方について全員で確認しあい共有する時間を設けることが必要である。

・「担当」ではなく、「パートナー」と呼ぶこと

→初めの自己紹介時に、「〇〇ちゃん担当の、〇〇です。」のように言ってしまっていたが、今後は「〇〇ちゃんのパートナーの、〇〇です。」と言うように心がける。「担当」というのは良い響きではないことから、「一緒に寄り添う」という意味も込めて「パートナー」と言うようにする。

・「ネームカードの有効活用」

→せっかくネームカードを事前に作っていたのに、あまり使うことができなかったため、今後は有効活用していけるようにする。

・「今後、オンラインでやってみたいこと」

→新型コロナウイルスの影響により、福島の子どもたちも県外には出られないため、東京の景色を届けられたらいいと思う。秋学期のゼミは5回の対面授業が可能のため、その時に全員で撮影をし、東洋大学の様子やキャンパスの周りを散策したりして撮影してみてもどうか。

・オンラインゲームだと参加しづらく、ゲームをするのが係と子どもたちだけになっていた。そのため学生は見ているだけになることが多く、担当の子と交流する機会が少なかった。

→学生もしっかり参加できるゲームをする。

ペアでできるゲームを考える。

Ex) 以心伝心ゲームやペアの子と答えが揃ったら勝ちなど

・ボランティア学生がアウェイな感じがした。

→事前打ち合わせでゼミ生とボランティア学生が仲良くなれるように工夫する。

・三年生は初めてに活動で控えめになってしまった。

・三年生は子どもたちともしっかりコミュニケーションを取りたかった。子どもたちに顔を覚えられていない気がする。

・現地でサポートしてくれた先輩のKさんの協力がなかったらオンライン中継うまくいかなかった。

→今後もオンラインの予定なら中継役を2021年に向けて三年生ができたらいと思った。

- ・思ったよりもリモートで学習支援できた。
- ・紙、ペンの用意しておいて良かった。
- ・スムーズに教えられなかった。
- ・途中で暇な時間があった。

→やる内容が決まっていればよりスムーズにできた。

通信環境がいいところでやれば問題などが見られてよりスムーズだった。

レクと学習支援の空間をしっかり分ける。

事前の情報共有（どのように進めておくかなど）をしっかりとる。

4 今後の活動に向けて

福島県の子どもに寄り添うプログラムは、森田ゼミの活動として2019年から試み、今回で2回目の交流となった。今年は新型コロナウイルス感染予防のため、毎年行っているサマーレスパイットが延期になり、学生と子どもたちが対面出来る最初の活動であった。しかし、感染拡大に伴い現地での対面による活動が中止となり、急遽オンラインによる交流となった。この活動は、「子どもたちの成長促進、居場所づくり」という2つの目的があったが、今回は「オンライン上での交流の試み」という目的も加わった。

2019年の交流から1年経っており、今回初めて交流する学生もいたため、お互いに緊張している様子であった。1年ぶりにもかかわらず、学生の名前を呼んでくれる子どもがいたり、カメラに向かって笑顔を向けてくれる様子から、私たちとの再会を喜んでくれているように見えた。それは今までの交流を通して、子どもたちにとって東京の大学生との交流が楽しいと感じ、慣れなかった場所も回数を重ねることで安心できる空間になっているということだと思う。そして目的としている「居場所作り」が形になってきている証拠だと言える。交流の手段は変わっても継続的な活動だからこそ生まれる安心感があるのだと考えられる。

今回の企画は午前中にジャガイモ堀りの中継、午後にはレクリエーションや学習支援をオンラインで行う計画であった。初めに子どもたちのバスでの移動中に、学生と子どもたちの自己紹介を行った。学生は事前に自分の名前と子どもが好きそうな絵を描いた自己紹介カードを準備した。画面越しではあるが、子どもたちは自己紹介を多くの学生に見られているということもあったのか、緊張しているようであった。

畑に着くと雨が降っていたため、急遽予定を変更し、子どもたちは収穫済みのジャガイモの選別作業を行った。中継によって、子どもたちが一生懸命作業を行っている様子を学生たちが見守りながら応援メッセージを送った。合間に見せてくれる笑顔にも、学生たちは元気をもらえたようだ。

その後場所を移動し、昼食までと午後の時間はグループごとにレクリエーションや学習支援を行った。レクリエーションは事前にオンラインでも出来る内容について案を出し合い、レク係を中心に準備を進めた。今回もジェスチャーゲームを用意していたが、前回子どもたちが恥ずかしがって出来なかったという反省を生かして後に回し、まずは〇×ゲームや以心伝心ゲーム、イントロクイズ

などを行った。徐々に子どもたちの笑顔が増え、ジェスチャーゲームにも積極的にとりこんでいた。このように次回も今回のレクリエーションの際に出た反省を次回に生かすと、子どもたちとより早く交流を深められるのではないかと考える。

学習支援では、普段塾講師などのアルバイトで学習指導の経験がある学生を中心に、受験生などに対してスケッチブックを利用したりさまざまな工夫を行い、分かりやすい支援に努めた。学生たちのきめ細かな支援により子どもたちが問題を理解している様子が伝わった。このことから、オンライン上での学習支援は、今回の活動に限らず、普段も継続的に行えるのではないかと考える。

この活動は何よりも継続していくことが大切であり、今回の情勢によって交流を諦めるというのではなく、方法を模索しオンラインという形で実現できたことは、意義のあることであった。





② 2020年度セクシャルマイノリティ新潟県生徒交流会 活動報告

セクシャルマイノリティ新潟県生徒交流会

1 2020年度活動の概要

回	日時	場所（所在地）	参加者
1	2020年8月23日（日） 13:30~11:00	高校会館（新潟市）	高校生 2人 卒業生 5人 教職員 5人 保護者 2人 計 14人
2	2020年10月11日（日） 13:30~17:00	直江津学びの交流館 （上越市）	高校生 4人（zoom1人） 卒業生 5人（zoom1人） 教職員 5人 その他 2人 計 16人
3	2020年12月6日（日） 13:30~17:00	高校会館（新潟市）	高校生 3人 卒業生 5人（zoom1人） 教職員 4人 計 12人
4	2021年3月7日（日） 13:00~17:00	直江津学びの交流館	高校生 3人 卒業生 5人 教職員 7人 その他 3人 計 18人

2 交流会活動記録

(1) 第1回交流会（2020年8月23日）新潟市

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、さまざまな行動制限がかかって始まった2020年度。「どうしても集まりたい」というメンバーの声や、事務局がこの頃に知り合った高校1年生のFさんを中心に繋がりたい、という思いで、なんとか第1回を開催することができた。また、zoom参加も呼びかけた。今までは茶菓を提供して近い距離で和気藹々と、というのが交流会の持ち味だったが、基本的に飲食はなし、社会的距離をとりながらの開催となった。しかし、そのような制限のある中でも、旧知のメンバーが再会を喜び合った。Fさんはご家族と参加してくれた。

前回の交流会から8ヶ月（学習会から5ヶ月）の期間が空いていたため、お互いの近況報告があった。語りきれないくらいたくさんの話題が出された。フェミニズムに関心をもちはじめた、というAさん。高校を卒業して就職先や専門学校で壁にぶつかりながらも自分らしさを模索するBさんやCさん。大学に入って新しい世界で「はっちゃけ」ている、というDさん。Dさんのアサインドジェ

ンダーは男性だが、コーラスが好きでボイストレーニングをしてソプラノパートを担当できるようになった。歌が自信につながったという。この日も美しいソプラノを披露してくれた。高校生活の中で友情と恋愛に悩む E さん。「死にたいと思うこともあった」「心が折れそうだった」そんなぎりぎりの言葉も聞かれる中、「人とかかわらないと」「(交流会が開けず辛かったが) 今回の知らせが救いになった」という言葉があり、この会の重要性を改めて感じた。そんな中、初参加の F さんも保護者の前で堂々と自分語りをしてくれた。交流会が始まって 4 年目。間隔が空いた分、改めて参加者それぞれ、そして会全体の成長を感じる時となった。

●参加者感想抜粋

【生徒、卒業生】

- ・約 8 ヶ月ぶりの交流会で、多くの方に話を聞いていただいて、自分自身の心の支え、原動力になりました。次回も絶対に参加したいです。
- ・毎回ですが、自分が知らないメンバーのことはもちろん、自分の知らない自分も知ることができたと思います。自分の意見に対する感想やさらに意見をいただけることがとても貴重な時間であると強く感じました。話せる場所があることで、自分の意見が整理できる、他にもこういう考えがある、と思えるきっかけにできるのがとても良いことだと思いました。そして、やはり自分は言葉で伝えることが好きであると分かりました。同時に、言葉は凶器になりうるものでもあると思い知らされました。次回もよろしくお願いします！
- ・今までの視野より広がり、沢山知ることができました。自分らしさを忘れずに、すごしていきたいです。
- ・今日は貴重な時間をありがとうございました。自分でしか見えなかった景色以外に、知らない景色を見ることができました。本当にありがとうございました。
- ・さまざまな視点からの話を聞けたので、自分の中で考え方の視野が広がったように感じました。他者との人間関係の中で問題が発生した時に、多角的に考えられることで、柔軟に対応していく力をつけることができました。
- ・10 代の皆さんが持つ知識や経験はどれも新鮮で、30 代の私は勉強することばかりでした！今回も沢山の刺激と勇気をもらいました。
- ・話したいことが話せてよかった。フェミニズムの話がわりと興味を持って皆聞いてくれた。この時期に集まってくれて、大事な話ができたと、そんな交流会の場になっていて、うれしくなった。

【教職員、その他】

- ・ある先生から、在日朝鮮人の生徒に「たいへんな人生だけれども、生きる価値（?意味?）の大きい人生だよ」と伝えたことを聞いたことがあります。これは他の人の人生なんてたいしたことではないということではなくて、自分の人生について深く考えたり悩んだりして生きていくことの意味が大きいということなんだろうと思います。私は今まであまり深く考えたり悩んだりしてこなかったように思うので、これからそういうことを取り戻そうと思います。

- ・色々な話、悩みがあるのだと思いました。ネットや本で知るだけでなく、話をするのも大事だと思いました。(保護者)
- ・今回参加してみて、身近にこんなたくさんの人が居るとは知りませんでした。色々な考えがあって、色々な人が居るんだなと思いました。(保護者)

(2) 第2回交流会 (2020年10月11日) 上越市

zoom参加もあり、参加者が多かった。姉の結婚、出産にゆらぐAさん、成人式の参加や服装に悩むBさんやGさん、専門学校の様子に悩むCさん、学校の教員の「くん」「さん」呼び分けについて提起してくれるEさん、大学に進学してカミングアウトができたりして世界を広げるHさんなど、今回も多岐にわたる話題があった。お互いがお互いの悩みを共に考える姿が印象的だった。そんな中でAさん(初期メンバー)から、「それぞれがみんな生きてて偉い!」という言葉もあった。交流会を始めた当初は事務局である私などが最後にそれぞれの悩みにコメントや言葉がけをしたりしてまとめるような場面もあったが、私が言いたいことは参加者の先輩がみんな言葉がけをしたりまとめてくれる様子が非常に印象的で、嬉しかった。

●参加者感想抜粋

【生徒、卒業生】

- ・姉の結婚、妊娠の話をしたが、自分ではそれがとても現実的に思えないというところであって、それがもやもやにつながっているのかなと思っている。でも今日、改めて皆の話を聞いて、皆ちゃんと生きている!!とってしまった…。前回の交流会から2ヶ月しか経っていないのに、皆それぞれの場所があって、それぞれの場所で生きていて、時間は経っていて、色んなことが起こっているんだ、と当たり前のことなのに、思ってしまった。
- ・今日は、おはなしをいっぱい聞きました。うちのすきになる人たちが、女性と男性ということが話せてよかったです。人前で話すことが苦手で、でも話すことはすきです。だから、個人的には、相談できます。解離性障害のことをりかいしてくれる、この場は、とてもいごちがいいです。でも、解離の症状が強いと少しつらいです。交流会だと、高校生の人たちがメインだと感じてしまい、ゆっくり話したいことがあっても、話せないことがあります。「おとなの会」っていうのをかいさいしてほしいです。(中略)うちは少しつかれましたが、今回の交流会来てよかったです。ありがとうございました。
- ・「自分に見えていないから、自分の周りにはいないから」保護をしなくていい、配慮はいらないと考えてしまうのはなぜだろう、と思った。少数派が弾圧されているという世間の実情を理解してもなお、同じことが言えるのだろうか、と考えた。社会的に作られた性へのイメージで個人の感情や思想を縛ることって許せないことだと感じた。学校現場などで個別に対応することも大事だが、本人が声をあげなければ対応できない場面もあるのかもしれないのも、むずかしいなと思った。

- ・今回約1年ぶりの参加でした。新型コロナウイルスや8月に参加できなかつたりで久しぶりに参加できて嬉しかったです。今回はCさんやEさんの話が印象強く残りました。高校での呼称の話や制服、専門学校での事で自分にも大いに関係あるので、自分の事のように聞いてしまいました。なぜ名前や外見で「君」「さん」を区別するのか、なぜ制服を選べないのか、なぜ女性として公務員に就職できないのか、いろいろ疑問に思いました。
- ・3回目の参加で、今回は2019年12月に見かけた方が多かったので、今まで話さなかったことを中心に話した。自分の高校の担任の先生が学校中の先生に呼びかけてくれていると聞いてうれしかった。未だ不十分なことも多いが、参加者の方々からさまざまな意見を聞いてよかった。
- ・今日改めて思いました。「みんな違ってみんないい」。自分らしさを探しながら生きていきます。

【教職員、その他】

- ・「社会はもっと厳しい」という事実の一方で、「今は教育がすすんでいるから」という話もあり。学校での経験を積み重ねて、社会へ出て行くのだから、改めて学校の役割の大きさを感じました。現在の勤務校は、生徒が今までになくナチュラルに「子どもいる？結婚してる？彼氏いる？」と聞いてくる状況です。「それってさ……」という、「セクハラだろ？知ってる、知ってる」みたいな。セクハラは間違いないのですが、その背後にある固定観念の強さにたじろいでしまいます。が、こういう雰囲気の中で過ごす生徒のきつさを考えると、がんばらねば、とも思います。本日はありがとうございました。
- ・みんな可愛くなってたまげた。みんな自分のことを言えるようになるんだなとたまげた。自分の進歩のなさにもたまげた。とりあえず「呼称」だ。ひとつひとつ確実に。まずは自分か。そして組合にも旗振ってもらおう……。この会に参加するのは、まともに生きたいからです。独善的でありたくない、自分の姿はどう映るのか。できればカミングアウトされる自分になりたい。寄せていただいてありがとうございます。

(3) 第3回交流会(2020年12月6日) 新潟市

この日は新潟を離れている初期メンバーが久しぶりにzoomで参加してくれた。ひとりひとりが自分語りや、多様な性のとらえかたについて自分なりの考えを披露した。皆が時にはホワイトボードを使いながら、普段考えていることを自分らしく時間をかけて語る様子はまさに圧巻だった。

「性は46分の1の違いでしかない、しかし、トランスだと思えるようになって、たかが46分の1、されど46分の1と思うことが多い。さまざまなところに壁があると感じる。」と語るEさん。Eさんは「くん」「さん」づけのことを教職員にお願いしてもなかなか進まない現状を語ってくれた。職場での「男女役割分担」に「居心地が悪くなってきた」と語るAさん。クラスで自然にカミングアウトできたことと喜ぶFさん。そのあとカミングアウトについての話が盛り上がった。家族にはできればわかってほしい。わかってくれる人に確実に自分を伝えたい。そんな思いが交わされた。いつも自分の思いに合う曲や元気づけられる曲をみんなに紹介してくれるCさん。いよいよ本格的にオリジナル曲づくりに挑戦しようとのこと。「不良とは?」「(おとなに)自分の子どもにどんな風になってほしい?」という質

問が出され、みんなが思い思いの考えを語り合った。Bさんは専門学校卒業後、就職した会社を退職。その間にあった辛い思いをこの交流会で差し出してくれた。この場で話をしてくれたことがうれしかった。(この日は感想文なし)

(4) 第4回交流会 3月7日(日) 上越市

大雪のため、1月に予定していた交流会が延期になり、3月の開催となった。この日は、下越地方から小学校の教員の方がふたり来てくださった。お二人がかかわっているお子さんが性別違和をカミングアウトしてその後不登校になっている、ということで、どのようにかかわったらいいのか相談をもちかけ、皆で考えた。「差別とは何か」「人権とは何か」というような話題となり、森さんの女性差別発言に対し「それはいけないことだ」と発言を指摘し解決するだけでなく、そういう発言が出てくる背景や原因に切り込まないといけない、という意見や、自分が正しいと思っていることは「正しい」じゃないかもしれない、自分も少数者を差別する可能性がある、という意見なども出された。Hさんは母親にカミングアウト。「やっと家族になれた気がする」という言葉が印象的だった。「当たり前が変化する」「同性愛と友人関係」「自分は何ものなのか」などなど、ひとつひとつ重く深い課題が出され、いつも通り時間の足りない会となった。

●参加者感想抜粋

【高校生、卒業生】

- ・今回はいつも以上に人権について考えることができました。自分も発信していけるような人になりたいと思います。
- ・4月から進学して環境が変わるので、楽しみ、解放感と同時に不安も感じていました。しかし、みなさんのアドバイスやお話を聞いて希望が見えてきました。セクシュアリティの関係の話以外にも、「差別」とは何なのかということや、人間の本質といったものが見えた気がします。9.5kmの道のりを来てよかったです。
- ・母にカミングアウトするまでに、自分自身の他者に対する考え方を見つめ直すことが多くあった。自分も自分の知らないマイノリティ(他者)を差別しているかもしれないとずっと思っている。
- ・今の情勢も相まって、理由のない「区別」で誰かを傷つけているかもしれない、それが差別なのではないかと思った。自分の中でも無意識にそれをしているかもしれないと思い、もっと視野を広げて「自分の『当たり前』を他人に押しつけていないか、それは自分が一番されたくないことを人にしていないか」を常に(疲れすぎない程度に)考えていきたいと思った。これは性別とは関係ないですがどうしてもクソ真面目で人にたよれない部分が強くあるので、悩みを話すことも含めて、もう少したよったり怠けてもいいのかな……、と思った。(体調をくずす前に誰かをたよりたい)
- ・皆必死に生きていて、考えていることを感じられて幸せです。それが一番で宝物だなと思います。
- ・小学生の方(この日来た小学校教員の方からの相談)、一緒に考えてあげてほしいのと、よりそい話をきいてもらいたいです。特別なことを何か措置するのではなく、その子にとってどうい

う形をとればいいのか、一方通行の考えではなく、双方で考えてもらいたいです。そして体の変化や心の解離があったとしても、自分が失われることはないということをお伝えいただければと思います。

【教職員、その他】

- ・ 学校が悪いのは国家の価値を押しつけてくるからです。学校がやっていることは、国やTVで見る政治家が国民にやりたいことです。だからダメだし、あまりいいことはやってくれません。少なくとも私たちはそれにあらがってきましたが、そんなかんたんに勝てる相手ではありません。学校とはそういう残念な場所です。だから、これからもがんばっていきますよ。
- ・ 安心して自分を語るができる場があること、この場にいられたこと、幸せな時間でした。さまざまな悩みを抱える人が語り合える場があり、語り合える世の中にしていきたいですね。落合恵子さんが人権とは「人の足を踏まないこと」と同時に「人に足を踏ませないこと」と話しているのを聞き、自分自身の差別心に気づかされました。これまで、教室で「人の足を踏まない」子、人の痛みのわかる子を育てようとしてきましたが、それは上から目線だったなあと思いました。「人に足を踏ませないこと」ってどういうことかわからなくなりましたが、今日の参加者のお話がヒントになりました。
- ・ ありがとうございます。自分の見える景色がまた少し変わったように思います。様々な方と交流するよさを味わうことができました。「当たり前が変化する」という言葉、「自分はどっちなんだろう」という言葉、「ゆたかな人権感覚とは」「見えない線引き」……少し頭を整理しないとまとまりませんが、とにかくよい機会を頂きました。考えることを楽しみたいです。
- ・ 参加させていただき、よかったです。自分と向き合っているみなさんと同じ空間にいただけで元気が出ました。新井先生の「会いたきゃ会いにいけばいい」がストンとおちました。そうしたいと思います。教員の中にはさまざまな考えの人がいますが、自分が思うことをできる範囲で行動に移したいと思います。私事ですが、高校2年の娘が摂食障がいです。「お母さんに話をきいてほしかった」という声が自分に言われているような気持ちになりました。親としてもまだまだ……という思いにもなれました。娘も連れてきたくなる会でした。ありがとうございます。
- ・ 相談させていただいた子（小学生）はもうすぐ卒業です。今日みなさんの話を聴かせていただいて「もしかしたらこんなこと悩んでるのかな」「そんなこともきつといやだったよな」などと想像しました。だけど、それも自分の感覚なので、本人と話していこうと思います。卒業してもつながっていける仲間ってすてきです！
- ・ 自分の考えを、伝えよう、伝えなきゃと考えながら話しているみんながカッコイイ。



③ 子どもの権利条約関西ネットワーク 子どもチーム

子どもの権利条約関西ネットワーク

らな

2019年の子どもの権利条約全国フォーラム IN 東京で分科会をもって「子どものけんり なんでもやねん!スゴロク」をいろんな人たちと一緒にやってみて、いろんな「なんでもやねん!」があるねんなあ〜と感じた。いろんな人たちとつながることがめっちゃたのしいし、おもしろいって感じた。そして、2020年は絶対に「富山の全国フォーラムに行こう!!」って言って、子どもの権利条約関西ネットワーク・こども会議チームの活動がスタートしたけど、予想もしてなかった新型コロナウイルス感染拡大で、緊急事態宣言が出て学校も休校になって、みんなに会えない状況になった。それで、緊急事態宣言が解除されて、やっとみんなで会うことができたけど、2020年の子どもの権利条約全国フォーラムは富山県の南砺で開催されることは決まっていたけど、現地に行けるかどうかはわからなかった。でも、みんなで考えて現地に行けるかどうかはわからんけど、こども会議チームでできること考えよう!って準備が始まった。みんなで作った「子どものけんり なんでもやねん!スゴロク」をもっとよくしようって、自分たちでイラストを描くワークショップをした。それで、そのイラストがなんでもやねん!スゴロクになった。

そうやって準備して希望をもってたけど、新型コロナウイルス感染予防対策で富山県南砺市の会場に行つての参加は叶わなかった。でも、やっぱり、こども会議チームのメンバーと一緒に全国フォーラムに参加したい!と思って大阪にサテライト会場を作ってオンラインで参加することができた。

2020年の「子どもの権利条約全国フォーラム IN 南砺」に参加する方法をみんなで意見を出して考えた。現地に行くことは叶わなかったけど、やっぱりみんなで集まって一緒に参加したいと思って意見を出して、大阪で集まって、大きなレンタルマンションを借りて、こども会議チームはそこに行つてみんなで合宿することができた。全国フォーラムは2日間あって、1日目の記念公演に参加したあと、合宿する場所に移動して、こども会議チームの友だちと一緒に夕食づくりでハンバーグ作った。めっちゃおいしかった。夜、星を見ながらたまにしか会えないこども会議チームの友だちといろんなこと話をしたことがすごくたのしかった。

こども会議チームの活動はいい感じ!こども会議チームの友だちとは学校も違うし、生活している場所も違うけど、違うからこそいいなあって思う。いろんな経験や学校のことも違うなあってわかる。違うからこそいろいろ話せて、共感できるところがいっぱいある。いろんなことを知ることができる。そうやって、夜遅くまでいろんな話をしたり、次の日のフォーラムの準備をしたり、たのしかった。

● 全国フォーラムの2日目は、オンラインで全く違う場所、全国からみんなが参加してて、それぞれの活動とか知って、そこでもいろんなことがわかる。

● そんな中で、2019年東京での全国フォーラムで分科会を持って、「子どものけんり なんてやねん! スゴロク」を発表して、参加してくれた人たちとスゴロクをしたり、今回のフォーラムでも大阪（関西）の子どもたち元気やなあ〜って、ほめてもらったことや「子どものけんり なんてやねん! すごろく」もいろんな人に関心持ってもらえてうれしい。

● すごろくを作るのもたのしい。作りながらいっぱいいろんなこと話せるし、生活のこととかも。

● そして、この活動を通して「自分の学校にきてほしい」と思った。子どもの権利条約のことを友だちに話しても全然通じなかった。友だちは「子どもの権利条約」を知らなかった。「何それ?」って言うてた。私は学校の友だちにも「子どもの権利条約」のことを知ってほしいと思ったし、知っている方がいろんなことを話ができると思った。

● それで、自分で学校の先生に「子どものけんり なんてやねん! スゴロク」を学校でやりたいて話をした。はじめはめっちゃ緊張したけど、自分が思ってたよりきいてくれた。

● 話をした先生がこどもの里のこと知ってて、びっくりした。前に、こどもの里の近くの中学校在いたことがあって、こどもの里に来たことあるって話してて、うれしくなった。

● それで、子ども会議チームのおとなと先生が話をして、学校で「子どものけんり なんてやねん! スゴロク」のワークショップができることになった。すごい! その先生には、子どもの権利条約ブックを渡した。先生は「子どもの権利条約」のことは、ことばは知ってるけど、深くは知らないみたいやけど、大事って思ってもらえて、深く知ってもらえることができるのが、うれしい。同じ学校の友だちとスゴロクをして、それを通して、友だちの気持ちとかもっと知ることができるのがたのしみ。

● 2021年も新型コロナウイルス感染予防対策とか続いているけど、全国大会のある川崎に行きたい。いろんな人と話したいつながりたい。

● もうひとつは、こどもの会議チームのことや「子どものけんり なんてやねん! スゴロク」を知って関心を持ってくれたおとなとつながった。OECD っていうところの人で、2020年「子どもの権利条約全国フォーラム」に参加していた。その人とも zoom でこども会議チームの友だちと一緒に話したけど、その人はパリからの参加だった。パリとつながったのすごい! あれはヤバイ。その人との約束で、今度その人がつながっている世界の子どもと zoom でつながって「なんでやん!」を話そうというミニプロジェクトをしようってなった。世界の子どもとつながってなんかピンとけえへんけど、なんかすごくうれしい。

Himari

私は今中学3年生で、小学校1年生の時から、権利条約フォーラムに参加してきました。理由は楽しいからで、学校と離れた所で友達ができ、自由に仲間みたいに話せるからです。

全国フォーラムは、自分が知らない所に行けているんな考えの人に会えます。特別な体験です。20年はオンラインで残念だったけれど、特別にみんなで過ごせる場所を用意してくれました。一緒にご飯を食べて、遅くまで話して。「これっておかしい」「なんでやねん!」と愚痴もたくさん言えて。今回は、全国とズームで繋がる（後にパリとも）体験までして、不思議な気持ちでした。「コロナ」でいるんなことができなくなったから、嬉しかったです。

私は今、吹奏楽部で部長をしています。小学校の時から楽しみで入りました。でも入ったクラブは、イメージが違い「金賞を目指すクラブ」でした。1年生の間は、先輩のきつい言葉や態度に「なんで?」ばかりで。食べられない位、辛い時もありました。何度も辞めたいと思ったけど「なんで、音楽をしたい人が辞めなあかんの?私は楽しみにしてきたのに!悔しい」「私が部長になって変える!」と心に決めて頑張りました。で、自分でも驚いたけれど、本当に続けて今、部長になりました。私は今、部活の始まりと終わりに話すコメントを工夫したりして、友達にも手伝ってもらって頑張っています。でも、部の雰囲気、上下関係は変えられても、おとな（先生）は変えられないのがストレスです。

私は今の顧問が苦手です。例えば

- ①（子どもはちゃんと挨拶をしているのに）自分は挨拶をしない。
- ②（子どもだって時間は大切なのに）時間を守らない。
- ③ 私たちのクラブなのに、子どもに聴かず「みんなやりたいやろ」と頭につけて、いつも自分がやりたい「金賞にこだわるクラブ」を進める。

①は、「みなさん挨拶していますか?」というので、私たちが目をあわせて挨拶しても返しません。返してくれた!と思っても会釈。

②は、私たちにはクラブの開始に遅れると厳しく怒るのに、先生は遅れても一言の「ごめんね」も言いません。おまけに平気で延長する。以前、あまりに腹がたったのでクラブ終わりの部長コメントで「時間を守るということは、人としても大切なことだと思います。みんなは時間をしっかり守ってくれるから練習がスムーズにできます。時間を守ることは大切にしていこう」とわざという、笑顔でめっちゃ頷いていました。私は嫌味を言ったのに。自分のことを言われているなんて全く思っていないのかな、子どもだって時間は大切なのに。

例えば私は今受験生です。他のクラブより引退が3ヶ月遅い吹奏楽部なので、私にとって時間が大切です。先生の都合でスタートが遅れ、堂々と延長して終わられると、私たちはそこから後片付けをして帰り、結果、習い事に遅れたり、行けなくなってしまう。こっこの都合も想像してほしい。

- ③以前「オフをオフとして優先したいと思ったら怒られた」事件がありました。

オフだった日を、先生が急に話し合いをするから部活にするといいました。もともと休みがない時期の久々のオフで、みな楽しみにして、予定を入れていたので、オフにしたいといいました。すると先生が「オフを優先して今日話し合いをするか、オフの日をやはり部活にするかよく話し合いをしてください」といわれ、2、3年生で話し合うことになりました。で、話し合った結果、「オフにしたいと言う」となり、報告しようと教室を出たら、教室の前に先生いて「部長、副部長ちょっと」「私がいったことは届かなかったのね」と怒られました。話し合っただけで怒られたから話し合った。ほしい答えでなければ怒る。おまけに過去の先輩は、15分の中休みも練習していたといわれて「オフにオフを選んで何が悪いのか」頭痛がしました。またある時は、先生が練習の表の時間を間違えていて、1時間延長するといわれ、すでに予定を入れていた子が帰りたいといったら呼び出され「1時間延長と聞いて、クラブがもっとできる。ラッキーという気持ちがあなたに足りない」と言われていました。その子が落ち込んでかえってきたので、私は震える位腹がたちました。その後しばらく、先生の話聞く時、目をあわせませんでした。ある時、某有名学校の吹奏楽部の映像を見せてきて「先生もこんな風にみんなになってほしい」といわれました。それを見て私が思ったのは「信頼関係があるから、むちゃぶりがきく。なかったらむり、こんな無理」と思いました。うちの顧問は「先生」ならそれができると思っている気がしました。

「コロナ」の今、近隣中学は夏のコンクールの参加について部内で話し合い辞退も考えている・・・と友達の情報で聞きました。「子どもに聞いてくれている。相談ができていいな」と思いました。うちは「あんたらやりたいやろ。ねばろうな」と既に参加の返事をしたと報告されました。私たちの中には、参加したい人もいるけれど、「コロナ」にかかるのが怖いからやりたくない人もいます。でも、言える雰囲気ではありません。

正直、私は4月半ばからクラブは休みの今、6月から1ヶ月猛特訓しても難しい。1年生は特に。また、2ヶ月で劇的に「コロナ」の状況がよくなると思えない。修学旅行も秋に変更になったのに。なぜ7月に大型バスにのって行けるのか…。また緊急事態宣言ができるかもしれなと思うと複雑です。「コロナ」が学校でたくさん出たら行けないけどとも言われ…なんできちんと考えないおとなに、ふりまわされなあかんの?と思いました。今年の受験は「学習指導要領が新しくなり、「コロナ」もあって、前例がない受験!気を引き締めて」と散々脅されるだけでも不安なのに…。この先生は本当に疲れます。だから、こんなことは絶対いってはいけないけれど、「コロナ」で助かったと思うことも正直あります。部活が減り、自分の時間が増えました。音楽を楽しむ位でもよくなりました。私たちだけでは変えられなかったことが、少しだけ変わりました。選べるようになりました。絶対にあかん例えだけ。

私は部長になって心に決めていることがあります。①人を責めない。自分が1年生の時に、先輩に疑問をもっていたので②コメントを言う時は笑顔で。また、部長は先生からの伝言を全員に伝えないといけなくて、最初はその内容で私が仲間から責められることもありました。だから最近は「先生は、言っていました」「私はこう思う」と、さりげなく主語はわかるようにしています。あと「終わりのコメント」は必ず自分で考えたり、気づいたことでもいいことを言います。時々、みんなの代わりに、先生に向けて言う時もあります。(先生は気づいてない) ③金賞にこだわらない人もクラブを楽しんでいい

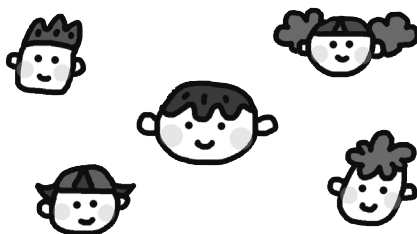
雰囲気を自分から出す。いろんな目標とか参加の仕方があっていいと思うからです。2・3年生の団結は固く、特に3年生が協力してくれるので助かります。

私は先生になる人が、子どもの権利をちゃんと勉強して知ってくれていたらと思います。母には教師以外に学校の中で他に話をきいてくれる人はいないの?とききます。カウンセラーがいるとは聞くけど、いつどこに来て、どんな風に話せるかは知りません。

校長先生は毎朝門の前に立っています。今の校長は、私が小学校の時の校長先生です。

いつもあそこで会えるとわかるから、もしもの時はみんなで相談にいこうと話題に出る時もあります。ただ、呼び出されるのは部長で、クラブ以外授業でもあうので、後が怖いから、今はみんなの心の保険です。

でも、もしもの時はおとなに助けてもらおうと思っています。「助けてください」といえば、助けてくれるおとなもいることは知っています。フォーラムで「おかしいことはおかしい」といつてくれるおとなを見ている。でも「これっておかしい」と思っていることを知らなかったら・・・金賞をめざしていたのかな。クラブは続けられなかったらうなと思います。



Document 子どもの権利をめぐる国際動向 (2022.4~2022.6)

ARC 代表・子どもの人権連代表委員 平野裕二

筆者が日々 Facebook にアップしている投稿のなかから、子どもの権利をめぐる国際的動向についての主なニュースを紹介していきます（一部、日本国内の動きについても取り上げます）。各項目の末尾に関連の投稿の日付を掲載していますので、詳しい情報は各投稿をご参照ください。筆者のアカウント名は Yuji Hirano (yujihirano.arc) です。

【2022年4月】

■国連人権理事会、子どもの権利と家族再統合に関する決議を採択

国連人権理事会が、4月1日、「子どもの権利：子どもの権利の実現と家族再統合」に関する決議を無投票で採択。国連人権高等弁務官の報告書とそれに基づく全日討議（3月9日）を踏まえたもので、▽家族分離を防止するための積極的措置をとること、▽移住の状況にある子どもの権利と最善の利益を十分に保証すること、▽子どもとともに非正規な状況下で在留している移住者のために正規化の手段の提供を検討することなどが促されている。（4月8日投稿）

■台湾の国家人権委員会、子どもの権利の実施状況に関する意見書を発表

2020年8月1日に設置された台湾の国家人権委員会が、4月1日、子どもの権利条約の実施状況に関する独立評価意見書を発表。子どもの権利条約実施法（2014年）に基づいて政府が2021年11月19日に発表した第2次国家報告書を踏まえたもの。国家人権委員会がとくに重要と考えた24の問題を取り上げ、分野別に提言を行なっている。子どもの権利条約実施法を踏まえた学校教育のあり方の見直しや、子どもに対するあらゆる形態の暴力

（家庭における体罰を含む）の解消なども促された。（4月4日投稿）

■ユネスコ、男子の教育離脱に関する報告書を発表

ユネスコ（国連教育科学文化機関）が、4月6日、『ひとりの子どもも取り残さない：男子の教育離脱に関するグローバルレポート』と題する報告書を発表。初等教育段階では学校に通えていない子どものほとんどを女子が占めるものの、後期中等教育・高等教育段階では男子の脱落が増加することなどが明らかになった。これらの課題に対応するため、報告書では▽男子のドロップアウトを防止するための努力、▽包摂的かつジェンダー変容的な（ジェンダー不平等の根本的原因に対処する）教育制度の推進などを勧告している。（4月18日投稿）

■欧州評議会、第4次「子どもの権利戦略」を正式発表

4月7～8日にローマで開催された欧州評議会のハイレベル会議「地平線を超えて：子どもの権利新時代」で、2月23日に採択された第4次「子どもの権利戦略」（2022～2027年）が正式に発表された。同戦略では、(1) 子どもに対する暴力の解消、(2) 機会

均等と社会的包摂、(3) テクノロジーの安全な利用へのアクセス、(4) 子どもにやさしい司法、(5) すべての子どもに対する意見表明の保障、(6) 危機的・緊急事態における子どもの権利の6分野が重点目標に位置づけられている。会議の前日(4月6日)に発表された欧州評議会加盟国の「ロシア連邦の侵略がウクライナの子どもたちにもたらす影響についての宣言」でも、末尾で同戦略の重要性が強調された。(4月5日・9日投稿)

■香港オンブズマン事務所、知的障害児への人権侵害の職権調査開始を発表

香港オンブズマン事務所(香港申訴専員公署)が、4月7日、知的障害児学校の宿舍部で身体拘束をはじめとする子どもの不当な取扱いが行なわれているという報道等を受け、教育部がこれらの学校を適切に監視・監督しているかについての職権調査を開始すると発表。オンブズマンは、このような子どもは問題が生じた場合でも親などに伝えることが難しく、政府にはこのような子どもの福祉や安全を守る義務があると強調している。(4月12日投稿)

■ウェールズの子どもコミッショナー、乳幼児教育・ケアの現場向けの子どもの権利リソースパックを発表

ウェールズ(英国)の子どもコミッショナーが、乳幼児教育・ケアの現場に子どもの権利を根づかせていくためのリソースパックを発表(4月8日)。政府が2021年11月に発表した子どもの権利に関する意識啓発計画で、5つの取り組み対象のひとつに乳幼児期が挙げられていることを踏まえたもの。3月には教育現場に子どもの権利アプローチを根づかせるための指針も発表

されている。(5月21日・10日投稿)

■米・国務省、2021年版人権報告書を発表

米・国務省が、毎年刊行している人権報告書の2021年版を発表(4月12日)。日本の子どもの人権との関連では、▽無国籍の子ども、▽「痴漢」問題、▽警察によるレイシャルプロファイリング(人種差別的偏見に基づく職務質問等の対応)などが新たに取り上げられた。(4月13日・16日投稿)

■韓国国家人権委員会、芸能界で働く子どもの人権保障を強化するよう勧告

韓国国家人権委員会が、4月14日、芸能界で働く子ども(児童・青少年大衆文化芸術人)の人権保障を増進させるための措置をとるよう、文化体育観光部長官と教育部長官に勧告(5月4日発表)。▽このような子どもの役務提供時間の制限を強化すること、▽このような子どもの人権保護のためのガイドラインを定めること、▽このような子どもの学習権保障などについて定めた「基礎学力保障総合計画」を策定することなどを求めた。(5月16日投稿)

■アイルランドの子どもオンブズマン、新型コロナ禍に関する調査結果を発表

アイルランドの子どもオンブズマン事務所が、新型コロナ禍が子どもたちの生活に及ぼしてきた影響に関する報告書『フィルターなし：子どもたちのCOVIDパンデミック経験の調査』を発表(4月20日)。9～17歳の子ども1,400人弱の子どもを対象として2022年2月に実施した調査の結果をまとめたもので、回答者の83%がパンデミックに

よって学習に何らかの悪影響があったと感じていたほか、14%はパンデミックの期間全体を通じて家庭でのオンライン学習に関して何の援助も受けられなかったと語っていることなどが明らかになった。一方、感染防止のための行動制限が解除されたことについては54%が喜んでおり、40%近くが希望を感じていることもわかった。(7月14日投稿)

■ イングランドの子どもコミッショナー、「家族」についての調査を開始

イングランド(英国)の子どもコミッショナーが、4月27日、「家族」についての独立調査を開始。英国内の不平等を調査するために設置された「人種・民族的格差委員会」の勧告を踏まえ、政府(地域改善・住宅・コミュニティ担当閣外大臣と平等担当大臣)の委嘱を受けて行なわれるもの。同時に6歳以上の子どもを対象とするアンケートも開始された。今後、さまざまな層を対象とするアンケートが順次実施されていく予定。(4月29日投稿)

【2022年5月】

■ 国連・子どもの権利委員会の第90会期、始まる

5月3日、国連・子どもの権利委員会の第90会期がジュネーブで始まった(～6月3日)。新型コロナ禍の影響で第89会期(1～2月)が2週間に短縮されたため、通常の会期の期間(3週間)に1週間をプラスし、アイスランド、カンボジア、カナダを含む12か国の報告書を審査する。会期初日にはバチエレ国連人権高等弁務官によるスピーチもあった。(5月1日・4日・8日・18日・19日・26日投稿)

■ 韓国政府、「子ども基本法」制定の意向を表明

韓国政府が、同国の「こどもの日」である5月5日、「子ども基本法」(仮称)を制定する方針を発表。子どもを権利行使の主体として認め、遊ぶ権利を含むさまざまな権利(医療サービスを受ける権利、発達権、生存権、参加権、環境権など)を具体的に定めるとともに、企業の責任などについても規定する予定。(5月6日投稿)

■ 韓国国家人権委員会、高校の寮における行き過ぎた行動制限については是正を勧告

韓国国家人権委員会が、新型コロナウイルス感染防止を理由とする生徒の過度な行動制限については是正を勧告(5月6日発表)。在校生のほとんど(約9割)が寮に入っている学校が、生徒の意見を集約しないまま寮生の外出・外泊を厳しく制限したことについて、全国的なコロナ防疫措置水準に照らしても過度な措置であって憲法10条(一般的な行動の自由の権利)を侵害すると判断したもの。別の事案(5月11日発表)では、高校寮内で携帯電話の所持・使用がほぼ全面的に禁止されているについても、憲法10条や18条(通信の自由)を侵害するものであるとして是正を勧告している。(5月20日投稿)

■ 欧州委員会(EU)、子どもとインターネットに関する新たな戦略を採択

EU(欧州連合)の政策執行機関である欧州委員会が、5月11日、「子どもと若者のためのデジタル10年：子どもにとってのインターネット向上のための新欧州戦略」を採択。(1)安全なデジタル環境の確保、(2)デジタル世

界における子どもたちのエンパワーメント、(3) 子どもの積極的参加のさらなる推進を3本柱として、この分野でEU諸機関がどのような対応を進めていくべきかを明らかにしたもの。(5月13日投稿)

■欧州委員会 (EU)・オンラインの子どもの性的虐待の規制に関する新たな規則案を発表

欧州委員会は、上記戦略の発表と同時に、オンラインの子どもの性的虐待の規制に関する新たな規則案も発表(5月11日)。サービスプロバイダーに課される義務を強化するとともに、新たに「EU子どもの性的虐待センター」という独立機関を設置して、サービスプロバイダー等による取り組みを支援しようとするもの。一方、子どもの性的虐待表現物(児童ポルノ)やグルーミング(性的目的での子どもの勧誘)の検出義務がプロバイダーに課される点などについて、懸念や批判の声もあがっている。(7月2日投稿)

■ユニセフ、人道危機における保育の重要性を強調

ユニセフが『人道危機における保育』と題する報告書を発表し(5月16日)、緊急事態発生時にいち早く保育の態勢を整えることの重要性を指摘。▽保育者の研修とメンタリング、▽トラウマインフォームドケア、▽遊び、早期学習および社会情緒的発達のための空間とカリキュラム、▽栄養、WASH[水・衛生施設・衛生行動]、保健および社会的保護に関する統合的取り組み、▽主たる養育者の支援とエンパワーメントのためのイニシアティブの5つを必要な要素として挙げ、取り組みを強化していくための指針を提示した。(7月5日投稿)

■南アフリカで「第5回児童労働撤廃世界会議」が開催される

5月15～20日、ダーバン(南アフリカ)で「第5回児童労働撤廃世界会議」が開催され、最終日に「ダーバンからの行動要請」が採択された。▽最悪の形態の児童労働の撲滅を優先的に進めること(成人および就労年齢に達した若者を対象としたディーセントワークの実現を含む)、▽農業における児童労働を撲滅することなど、6つの分野における迅速な取り組みを促した。今回の世界会議には初めて子どもの代表が参加したものの、現に働いている子どもたちからは、自分たちの声が十分に聴かれていないという批判が出ている。(5月27日投稿)

■スコットランド政府、「権利を尊重する学校」推進のための資金供与を発表

スコットランド政府(英国)が、「権利を尊重する学校」認定プログラムをスコットランド内のすべての初等・中等学校に拡大するための資金を提供すると発表(5月20日)。同プログラムは英国のユニセフ国内委員会(ユニセフ英国)が推進しているもの。現時点でスコットランドの学校の57%が参加しており、参加校ではいじめや停・退学を減らすことに効果があったと報告されている。政府は、これとは別に、乳幼児期の学習・保育現場に子どもの権利を統合していく方法に関するユニセフ英国の調査も支援する予定。(7月8日投稿)

■イングランドの社会的養護改革に関する最終報告書が発表される

イングランド（英国）で進められていた子どもの社会的養護の独立検証事業の最終報告書が発表された（5月23日）。子どもの社会的養護を「リセット」すること、家族への援助と子どもの安全確保を強化することなどの方向性が打ち出されている。▽独立アドボケイトへのアクセスを強化すること、▽養護の経験を差別禁止法制における保護属性に位置づけることなども提唱。「いかなる若者も、愛情に満ちた関係を2人以上の人と持たないまま養護から離れることがないようにする」をはじめとする5つの具体的目標も掲げた。（5月24日投稿）

■ユニセフ、先進国の子どもの環境とウェルビーイングに関する報告書を発表

ユニセフ（国連児童基金）・イノチェンティ研究所が、先進国の子どもの環境とウェルビーイングに関する「レポートカード」を発表（5月24日）。経済的に豊かな国々の子どもたちのウェルビーイング度（幸福度）を比較検討してランク付けし、日本の子どもの精神的ウェルビーイング度が37位と振るわなかったことで話題となったレポートカード16（2020年）に続くもの。今回、日本の総合順位は13位（39か国中）だった。（5月25日投稿）

■スコットランド「子どもの権利条約編入法案」、修正が避けられないことが明らかに

スコットランド議会（英国）で2021年3月に可決されたものの、英国政府の異議申立てを受けた最高裁の決定に

よって施行できない状況になっている「子どもの権利条約編入法案」の現状について、ジョン・スウィニー副首相がスコットランド議会で報告（5月24日付声明）。議会で可決された法案を修正することなく成立させる可能性を求めて英国政府と協議を行ってきたものの、英国政府に拒否されたことから、法案の修正は避けられない状況。今後、どのように修正するかについて慎重な検討が進められる見込み。（6月3日投稿）

■遠隔学習アプリ等で生徒の個人データが不適切に収集されていたと国際NGOが指摘

国際NGO「ヒューマン・ライツ・ウォッチ」（HRW）が、リモート学習アプリ／サイトの約9割で生徒の個人データが不適切な形で収集されていたとする報告書を発表（5月25日）。発表にあわせ、「生徒は製品じゃない」というキャンペーンも開始された。（5月28日投稿）

■韓国・子どもの権利保障院、子どもの権利の歴史に関するオンライン資料館を開設

韓国・子どもの権利保障院が、5月27日、子どもの権利関連資料をデジタル化した「子どもの権利歴史館」をオンラインで開設。同機関は、子ども政策の総合的遂行および児童福祉関連事業の効果的推進を目的として2019年7月に創設されたもの。韓国における子どもの権利の歴史を6つの年代別に整理した年表をはじめ、さまざまな資料を収録。（5月29日投稿）

【2022年6月】

■ 欧州諸国の子どもオンブズパーソン、新型コロナ禍が子どもに及ぼした影響についての評価の結果を発表

ENOC（子どもオンブズパーソン欧州ネットワーク）がウェビナーを開催し、新型コロナ禍が子どもたちに及ぼした影響に関する調査結果を発表（6月1日）。CRIA（子どもの権利影響評価）の実施方法を発展させる取り組みの一環として実施されたこの調査には、13か国の子どもオンブズパーソン事務所が参加した。新型コロナ禍が子どものさまざまな権利に——部分的に肯定的な影響もあったものの——主として否定的な影響を及ぼしており、対策においても子どものことがほとんど考慮されていないことなどが明らかになった。（6月12日投稿）

■ 国連・子どもの権利委員会の第90会期が終了

5月3日から開催されていた国連・子どもの権利委員会の第90会期が6月3日に終了。通報手続に関する条約の選択議定書に基づいて提出された個人通報の審査の結果、▽国際的奪取の対象とされた子どもの送還決定に際して子どもの最善の利益の評価が行なわれなかったこと（チリ）、▽公立幼稚園における体罰に関して実効的調査を行なわなかったこと（ジョージア）、▽子どもがFGM（女性性器切除）やジェンダーの暴力の被害を受ける可能性がある国への送還を決定したこと（デンマーク；2件）について、それぞれ条約違反が認定された。

このほか委員会は、とくに市民社会組織やウクライナ人権コミッショナーから提出される通報に対して迅速に対

応することを目的して「ウクライナに関する特別作業部会」も設置。さらに、2021年9月に開催された「子どもの権利と代替的養護」に関する一般的討議の報告書も採択した。（6月4日・17日・24日・26日投稿）

■ 韓国国家人権委員会、学校暴力の加害者に対する行き過ぎた対応については是正を勧告

韓国国家人権委員会が、6月7日、学校暴力の加害者を居住地から25キロ離れた学校に転校させたのは行き過ぎだったとして、関連教育当局に是正を勧告（6月24日発表）。被害生徒と加害生徒を分離するため、学校暴力の予防および対策に関する法律（2004年）に基づいて加害生徒を転校させる措置の必要性は認められたものの、通学に往復3時間かかる遠距離の学校に通わせることは、成長期の生徒の健康権と学習権の侵害につながるおそれがあると指摘。このような措置は加害生徒の人間の尊厳と幸福追求権（憲法10条）を侵害するものであるとして、▽転校先を指定し直すこと、▽生徒の指導・教育という目的に合致するように関連の業務処理指針を改訂すること促した。（7月7日投稿）

■ EU理事会、「EU子どもの権利戦略」を歓迎・支持

EU（欧州連合）・欧州委員会が2021年3月に採択した「EU子どもの権利戦略」について、EUの政策決定機関であるEU理事会（閣僚理事会）が、同戦略および欧州委員会の関連の取り組みに対する歓迎の意と支持を表明する「結論」を採択（6月9日）。新型コロナ禍、ロシアによるウクライナ侵略などの状況を踏まえ、武力紛争をはじ

めとする危機的状況・緊急事態下での子どもの権利の保護にとくに焦点が当てられている。(7月13日投稿)

■子どもに対する暴力根絶のための国内行動計画に関するウェビナーに日本政府も参加

子どもに対する暴力根絶に取り組む国際NGO「End Violence Against Children」が、6月10日、子どもに対する暴力根絶のための国内行動計画を最近策定した国々の取り組みを共有するウェビナーを開催し、日本もコロンビア・フィンランドとともに参加。これにあわせ、日本の国内行動計画の英語版も外務省のサイトに掲載された。(6月26日投稿)

■国連人権専門家、ミャンマーの子どもたちのための行動を国際社会に要求

ミャンマーの人権状況に関する国連特別報告者のトマス・アンドリュース氏が、「失われつつある世代：軍事政権がいかにかミャンマーの子どもたちに破壊的影響を与え、ミャンマーの未来を損なっているか」と題する報告書を国連理事会に提出(6月13日発表)。ミャンマー国軍に対する国際社会の圧力を強めるよう、国連加盟国に求めた。国連・子どもの権利委員会も6月29日に声明を発表し、ミャンマー政府と国際社会に対応を促している。(6月25日投稿)

■ウェールズの子どもコミッション、親向けの子どもの権利条約ガイドページを開設

ウェールズ(英国)の子どもコミッションが、国連・子どもの権利条約に関する親向けのガイドページを開設(6月13日発表)。▽子どもの意見の尊

重の原則、▽可能性を最大限発揮できるような育ち、▽安全でいる子どもの権利に焦点を当て、子どもの権利条約を踏まえたウェールズの法制度や取り組みの紹介などを紹介するもの。(7月4日投稿)

■ENOC、ウクライナから避難してきた子どもの保護に関する新たな声明を発表

ENOC(子どもオンブズパーソン欧州ネットワーク)が6月24日付で声明を発表し、ウクライナの戦争から避難してきた子どもの権利の保護に関する詳細な勧告を提示。▽避難してきた子どもの登録、▽保護者に付き添われていない子ども／保護・養育者と離れ離れになった子どものための緊急対応、▽受け入れ・生活条件(保健ケア、心理的支援、教育、十分な生活条件等へのアクセスを含む)の整備、▽性的搾取・人身取引からの保護などの対応を欧州諸国に対して求めた。同時に、「EU域内で国際保護を求めるすべての子どもに対し、ウクライナの戦争から避難してきた子どもと同一の支援……および同一水準の保護を受ける資格が認められるべきである」とも指摘。(7月1日投稿)

■韓国で体罰禁止の認識が広がっていないことが判明

韓国では2021年1月に民法の「懲戒権」規定が削除されて体罰が全面禁止されたものの、セーブ・ザ・チルドレン・코리아(SCK)が6月27日に発表した調査結果によれば、20～60代の成人1,000人のうち親による体罰が禁止されたことを知っていた回答者は2割強に留まり、8割弱はこの事実を知らなかったことが明らかになった。

「体罰はどんな場合にも使用してはならない」と答えた割合も 34.4%に留まり、(消極的)容認派が 65.1%を占める状況。SCKは全国 6 都市で「ポジティブペアレンティング会議」を開催し、意識啓発に力を入れている。(6月28日投稿)

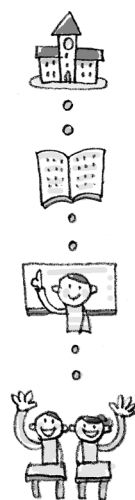
■ユニセフ、子どもと武力紛争に関する報告書を発表

ユニセフが『子どもと武力紛争の 25 年』と題する報告書を発表 (6月28日)。▽子どもに対する武力紛争下の権利侵害は 15 年間で 26 万 6,000 件以上発生しており、2005 年以降その数が年々増加していること、▽確認された子どもの被害のほとんどは 5 つの紛争——アフガニスタン (30%)、イスラエル・パレスチナ (14%)、シリア (13%)、イエメン (13%)、ソマリア (9%) ——で発生していることなどが明らかに。紛争の影響がしばしばジェンダーによって異なることも指摘されている。(7月9日投稿)

■パリで国連・教育変革サミットの「プレサミット」が開催される

6月28日～30日にかけて、パリのユネスコ本部で国連・教育変革サミット (TES: Transforming Education Summit) の「プレサミット」が開催され、154 か国から教育大臣・副大臣 (次官) が出席。「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」という SDG (持続可能な開発目標) 4 の達成に向け、とくに (1) 包摂的・公正・安全・健康的な学校、(2) 生活・労働・持続可能な開発のための学習とスキル、(3) 教員、教育活動および教育専門職、(4) デジタル学習とデジタル

トランスフォーメーション、(5) 教育財源という 5 つの分野でどのように変革を進めていくかを議論した。教育変革サミットの本番は 9月19日にニューヨークの国連本部で開催される予定。一方、国際 NGO のヒューマン・ライツ・ウォッチ (HRW) は 5月に「教育に対する国際的権利の拡大の呼びかけ」を発表し、無償の義務的就学前教育 (少なくとも 1 年) および無償の中等教育を、国際人権法で保障されるすべての子どもの権利として認めるよう求めた。(7月16日投稿)



Information

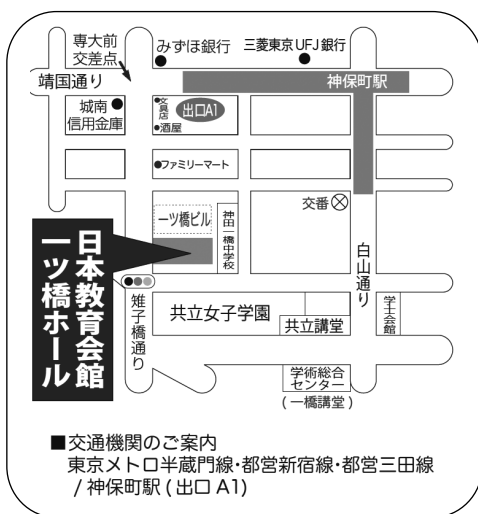
子どもの人権連 第37回総会・学習会

◆日時 2022年9月9日(金) 15:00~17:00(予定)

◆会場 日本教育会館 9階「平安」
(東京都千代田区一ツ橋2-6-2/地下鉄「神保町」駅A1出口より約200m)

◆参加費 無料

- 総会
- 学習会 ※総会終了後開始
- ◆テーマ
「子どもの権利擁護のしくみについて」(仮)
講師/半田勝久さん





活動の基調

子どもの権利条約発効以来、日本国内での実施や普及はまだまだの状態です。私たちは、内外の子どもをめぐる状況をつかみ、子どもの権利条約の実現、普及のための活動をすすめます。

●いんふおめーしょん／子どもの人権連／NO.172

Federation for the Protection of Children's Human Rights JAPAN

- ◆発行日 2022年8月8日
- ◆発行 & 編集人 子どもの人権連事務局
- ◆事務所 〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2 日本教育会館 6F
e-mail kodomo@jtu-net.or.jp
URL <http://jinken-kodomo.net/>

郵便振替／00180-8-18438 (子どもの人権連)

年会費 個人(1口) 5,000円、団体(1口) 10,000円